

令和6年度第4回千葉県文化芸術推進懇談会 開催結果

- 1 日時 令和7年3月13日（木）午後3時から4時まで
- 2 場所 千葉県自治会館 9階第1会議室
- 3 出席委員（委員総数11名中9名出席）（座長、副座長以下50音順）
草加委員（座長）、石橋委員（副座長）、植田委員、垣内委員、菊池委員、
河野委員、こまちだ委員、佐々木委員、椎名（喜）委員

4 会議次第

- 1 開 会
- 2 挨 拶
- 3 議 事
 - （1）第2次千葉県文化芸術推進基本計画（最終案）について
 - （2）その他

5 議事概要

（1）第2次千葉県文化芸術推進基本計画（最終案）について

パブリックコメント及び市町村への意見照会の結果を反映した「千葉県文化芸術推進基本計画」最終案について、前回懇談会で提示した原案からの修正点と今後のスケジュールを事務局から説明し、その後各委員により意見交換を行った。

<意見交換概要>

【副座長】

感想になるが、今回、発酵文化の記載が追加されたことについて、大変素晴らしいと思う。良い計画になるのではないかと思います。

【座長】

発酵文化という言葉は、懇談会の中では使われてきていたが、記述されてはいなかった。

【委員】

発酵文化について意見があったためコメントする。P.41「○発酵文化の魅力発信」について、事務局の説明の方では藍染めが入っていたが、ここには入っていないので入れてはいかがか。発酵文化は食文化以外もあるということの例示になるのでは。

このほか、P.1の「文化芸術の考え方」の2段落目について、「手の届きにくい」は、他の記述には見当たらないため、削除しても良いのではないか。「手の届きにくい身

近なものでない印象」だと、文章としてつながらない。

それから、5段落目の見え消し部分について、これは削除してよかったのか。個人が参加することが社会のアイデンティティにつながるということが結構重要なメッセージだと考えていた。ここは消さなくても良いのではないかな。

ただ、2行目の「何物にも代えがたい」という装飾的な言葉はいらないかもしれない。

続いて、P. 41「○千葉の海の魅力発信」について、意外と県民の皆さんの中には千葉県が三方を海に囲まれているということを御存じない方が多い。東西南北で言うと、東・西・南と三方が豊かな海に恵まれており、歴史や文化も育まれている。そのような意味でも、海に囲まれているという特徴を文言として入れていただけると良いのではないかな。

【事務局】

P. 1 の 5 段落目、赤字で見え消ししている「文化芸術とは」という部分について、1 行目にも「文化芸術は」という記述があり、定義が重なってしまうのではないかなという議論があったため、統一しようということでこちらを削除している。

仰るように、アイデンティティを形成するなど、足りない要素の部分については、盛り込めるかどうか検討したい。

また、「三方を海に囲まれた」という記述は、P. 40 の冒頭部分に記載しているが、重ねて記載が必要だということであれば検討するが、いかがかな。

【委員】

P. 40 に書いてあるのであれば、新たに記載しなくてよい。

もう 1 点、P. 43「○最新のテクノロジーを取り入れた新たな創作活動の促進」について、この説明の中に AI 等はいれなくても良いのか。昨今、AI 技術が進んできている。入れなくても良いかとは思いますが、これから 7 年 8 年経ったときに AI が芸術領域にもっと入り込んでいるのではないかな。個人的には人間がやるべきものだと思っているが、そういう社会になった時に、AI という用語が入っていないのはどうかなという気もした。

【委員】

非常によく整理され、わかりやすくなったと思うと同時に、わかりやすくなったからこそ気になる点はいくつかある。

まず、オンライン鑑賞についてだが、前年度の取組状況や基本指標等に「オンラインでの鑑賞を含む」や、「ネット環境を使ったリアルな体験だけではない体験についても記載がされている。P. 27 では「○身近な日常の中にある文化芸術の普及・啓発の実施」において、ネットで様々な活動をすることも含まれているし、日常生活においても SNS の利用も広がり、アニメや漫画は今はほぼネットで見られている状況である

と思うので、オンラインでの視聴を含むというところを一言入れてもいいのかなと感じた。

また、「①誰もが文化芸術に触れ親しむ機会の提供、関心及び理解の促進」の説明文に、「障害の有無や年齢、国籍等に関わらず」とある。わざわざ入れなくても良いのかもしれないが、LGBTQ への言及はなくてよいのか。「等」の中に含めていてもいいが、他の自治体では取り上げることもあるようなので、要素として加えてはどうか。

なお、言及するかどうかは、県の他の計画等との関係もあるので、事務局の方で御判断いただければ。

それから、P. 31 「○文化芸術活動推進にあたっての多様な財源確保方策の周知等」について、周知等となっているが、文章を読むと県による支援が来て、その後支援に関する情報提供とあるため、タイトルを「○文化芸術活動推進にあたっての多様な支援方策や財源確保方策の周知等」とし、支援もすることを明記しても良いのではないか。適宜事務局で御判断いただきたい。

P. 40 の発酵文化の追加はとても良いことだと思った。昨年、ユネスコ無形文化遺産に「伝統的酒造り」が登録されたが、その点を説明に書き加えてはどうか。

続いて、P. 45 「(9) 県」について、本計画に基づき文化以外の分野を所管する県の行政機構や様々な関係者と連携するとあるが、ここはとても重要な部分である。以前文化振興は文化のセクションだけで実施していたかもしれないが、この計画の中に書き込まれているように、今日、文化振興にあたってまちづくりから農業、商工関係、産業、福祉、教育など様々な関係機関と連携していかなければならない。そこで、今後どのように具体的に連携していくのか。難しいと思うが、来年度この計画が走り始めるにあたり、どのような形で連携されるのか。よくあるのは部局長会議等の設置であるが、わりと形骸化しやすいところもある。具体的にどう連携を担保するのか質問したい。

それから、必要な支援をするための資源の確保は入れなくても良いのか。行政として当然のことなので入れる必要がないということなのかもしれないが、「(1) 県民等」にクラウドファンディングやふるさと納税について書いてある。最近ではガバメントクラウドファンディングという、ふるさと納税の制度を上手く使って様々な事業に資金を活用していくということを自治体でも行っているようなので、(1) に寄付する側のことは書いてあるが、それだけでなく、寄付を推進する仕組みなど制度を設計する側のことを(9) に書かなくていいのかというところは少し気になった。

書きぶりや平仄等については、適宜事務局の判断に任せるが、記載しなかったとしても、今後施策を行う上で念頭においていただければ。

【事務局】

いただいた御意見を参考に検討したい。また、関係機関との連携の部分について、計画の策定にあたり、内容的にどういった取組が関連してくるかなど庁内各課に照会を出しており、その中で毎年進捗管理等も行っていくので、そういったものをきっか

けに連携を深めていきたい。

【委員】

冒頭、事務局からパブリックコメントの説明があり、今回の最終案に反映しているとのことだったが、具体的にどういった御意見があったか、また特筆すべき意見が何かあったか伺いたい。

【事務局】

資料3「意見と対応」に、本懇談会からの意見と、パブリックコメントでの意見概要を掲載している。

パブリックコメントはすべて文化芸術団体からの意見であり、それぞれ団体の特性があるので、それに関わるような御意見であったが、全体に共通することとして、若者の視点であったり、こどもに対する意見が多かった。

乳幼児から文化芸術に触れることが大切であるという意見については、我々も乳幼児を含めて文化振興を行っていこうと考えていたため、最終案にも盛り込んでいる。

【委員】

今回の最終案、非常にこなれてきたなと言う感じ。ただ、P.26の「歴史的、伝統的な評価を受けているものだけでなく、」と書かれると、どちらも同じであるため重複しているのではないかな。少しわかりにくいかなと思った。

また、全体を通してある程度例示をすることでイメージを持ってもらうというか、考え方をわかってもらえるのではないかな。

策定するにあたり最後には必ず、文章を直した結果、意味が通じているのかどうか全体を通して確認してほしい。

【事務局】

事務局で確認したいと思う。

【委員】

大変すばらしい計画を作っていただいたと思う。目指す姿「誰もが文化芸術に親しめる千葉」を実現するために、この計画が広く県民に理解されることが必要だと思う。そこで、計画のキャッチフレーズや愛称などを作ったらどうか。

続いて、P.29「○こども・若者が文化芸術活動に参加し、自己表現できる機会の提供」に、全国高等学校文化祭について記載していただき感謝する。ただ、もう少し具体的に書いていただけたら良いと思う。「県内市町村等と連携して取り組む」とあるが、何を連携して取り組むのか。その辺を少しでも良いので記載していただけたら。

P.39「④伝統文化を担うこども・若者の育成」について、4つの取組内容のうち2つが再掲であり、少し内容が薄いのではないかと感じた。再掲でないものには既存の

事業がついていると思うので、こちらもう少し具体的に記載していただけると有難い。

最後に、P. 45「2 計画の進捗状況の評価等」の加筆部分について、文章を読むと一文が長く感じる。毎年度の評価や中間年度の評価の結果をそれぞれ公表するとあるが、一読した時に中間評価の時にしか公表しないように読めてしまう。この文章は2つに分けてはいかがか。

【委員】

障害のある方の表現活動についても、こどもたちのことについても計画の中に色々入れていただいている。やはり文化を作るといのはピラミッドの底辺から作っていくということになるので、それはやはりこどもからということで、非常に良い計画になっていくと思った。

その上で、この計画を実行していくにあたり、実際に文化芸術に触れる場を創っていくことを考えていくと、アンケートの中で県が積極的に取り組む分野として「子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実」が一番多いが、それを求めているのが学校なのか、文化施設なのか、それとも家庭なのか。実施する上での内容や場所などの趣旨も変わってくると思う。アンケートを単にニーズの把握だけでなく、これに基づいて方向性を定めて実施していくことが必要ではないかと思った。

【委員】

現場としては、実際に計画が出来上がった後に、県や市町村と連携しながらどう進めていくかということを考えていきたいと思っているので、よろしく願いしたい。

【座長】

P. 1 の見え消し部分について、例えば、「(前段を受けて) もって、心豊かな生活を実現するとともに、個人としての、また様々なコミュニティの構成員としての誇りやアイデンティティを形成することを目指します」というようなまとめ方に変えると、前段を受けて、そういうことを目指している計画であるという書きぶりにならないかなと思った。書きぶり等については事務局の方で検討していただけると良い。

P. 3 から文化芸術の動向について記載してある。新しくどうかということではないが、いわゆる劇場法(劇場、音楽堂等の活性化に関する法律)だとか、図書館法というのも、P. 2「5 計画の対象とする文化芸術の範囲」にも書かれている。

どちらの法律もトピックスがあるわけではないが、劇場法や、図書館法も十分に踏まえますというように、少し触れても良いのではないかと思った。

続いて、成果指標について、柱1の成果指標「文化芸術に触れ、自ら取り組むことができる環境が整っていると思う県民の割合」について、現状22.1%のところ、50%を目指すとしている。成果目標の書きぶりから、この「環境」を、場所と捉える方もいるかもしれない。ここを、「自ら取り組むことへの環境が整っている」とか、「自ら

取り組むための環境が整っている」など、もう少し柔らかい表現に修正すると、調査の回答者が、質問の意図を間違いなく汲んで回答できるのではないかと。

P. 39④の取組内容について、「児童生徒」と書いているものと、「こどもたち」と書いているものがあるが、これは意図的に書き分けているのか。児童生徒を小中学校等の学生として、それ以外の広い範囲をこどもたちとして整理しているのであれば結構。

P. 43「○最新のテクノロジーを取り入れた新たな創作活動の促進」について、先ほど委員から話があったが、AI というものにも注目していきながらという一文が入れば良いのではないかと思ったが、それ以上に何か特別に書いた方が良いものがあれば委員に御意見伺えれば。

【事務局】

児童生徒とこどもたちの書き分けについては、お見込みのとおりである。

【委員】

先ほどお話のあった最新技術について、こういう計画にはどこまで記載するのかというところもあるが、伝統的なものづくりも大切であるし、デジタルによるレーザーカッターや3Dプリンターなどの新しいものももしかしたら入れた方が良いのかもしれないというところだろうか。古いものを捨てていくというわけではなく、積層することによって世界最先端を目指していくというニュアンスが入れば良いのかなと、座長の意見を受けて思った次第。

何年か前から FabCafe や Fab Lab など、デジタル機器を使って個々人が自分の生活の中で使うものを作り出していくという世界も生まれだしている。そんなことも新しいモノづくりとして色々な人がやりはじめているし、これが一つのうねりとなってまた新しい形として展開していくのかなと。

P. 31「○文化施設等の学校教育や他分野での活用促進」の「他分野」について、多いの方の「多」でも良いのかなと思う。多様な交流が図れることで、文化芸術の豊かさが育まれていくと思う。

【座長】

我々が音楽に触れ始めた時代と、今の子どもたちの触れている感覚は全然違う。我々であれば、テープレコーダーなどに録音して所有する意識があったが、今の子どもたちは無限大のハードディスクの中でそれを所有するので、新しいものを入れて古いものが消えていくことに何の違和感もなく、どんどん新しいものを取り入れていっている。我々だと CD であつたり、レコードであつたり、物として並べて満足していた感覚があるが、もう、そうではない時代になっている。

ダウンロードしてキャパシティを超えたら自動的になくなっていることにも全く意識が無い。所有するという感覚もないのだと思う。そういう時代になりつつある。時代が進んでいるのかもしれない。マーケットとしても、CD を売るのは難しい時代に

なっているという。それでも、日本が一番売れているようだが。まだまだ文化を所有する意識が強い国民性があるのかもしれない。

【委員】

今のお話から、障害者の芸術、発達障害や精神障害など、そういう特性のある方が生んでいる文化もあるのかなと感じている。表には出ず、ネットの中で行われ、共鳴する部分でお互いの存在を確かめる。それは流れてしまうことの方が多いかもしれないが、今後の動きの中でそういうものが一つきっかけとなって広がっていく文化もあるかもしれない。今後の活動で私どもがしっかり拾っていききたい。

【座長】

触れ合い方などもジェネレーションによって違うのかもしれないが。

残念ながら、オペラやお芝居を3倍速でみることも等しい。彼らにとっては、見ていることに価値があるのかもしれないが。友達同士で同じものを見たかどうかということが重要で、コミュニケーションツールとして文化を使っているところもあるのかもしれない。それも新しい文化の体験だと思うので、この計画でも文化の経験値にオンラインでの鑑賞等も含んでいるので、それが今の時代の考え方なのだと思う。この先はもっと変わっていくかもしれないので、我々はそれをしっかりモニタリングし、計画の中に反映していかなければならない。

(2) その他

事務局から次期の千葉県文化芸術推進懇談会について説明した。(意見交換なし)